

平成 22 (2010) 年度セタシジミ資源概況調査

石崎大介・幡野真隆

1. 研究目的

近年、セタシジミの漁獲量は 100 トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進を行う必要がある。その基礎資料を得るため、1997 年より産卵期前にあたる 5～7 月に実際の漁船漁具を用いて調査を行っている。

2. 研究方法

2010 年 5 月 11 日に琵琶湖北湖のセタシジミ主要 7 漁場 (表 1※) を含む 17 漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる貝桁網 (開口幅約 140 cm、網目 3 cm) を用いて調査した。調査は毎年同じ漁業者に依頼している。各漁場において 1 分間ないし 2 分間曳網し、採捕したセタシジミの個体数および重量を記録した。主要 7 漁場においては全個体の殻長を測定した。GPS の軌跡記録から曳網面積を求め、単位面積あたりの採捕量を計算し、生息密度とした。

3. 研究結果

主要漁場以外の生息密度は牧と近江舞子の漁場でそれぞれ 3.12、2.53 個体/㎡と高く、新海と八坂の漁場ではそれぞれ 0.01、0.07 個体/㎡と低かった (表 1)。

主要漁場の生息密度は平均 1.67 個体/㎡であり 2009 年の 0.51 個体/㎡から 3 倍以上に増加した (図 1)。セタシジミが採捕された全漁場で生息密度が増加し、特に今西漁場が大きく増加した (図 2)。その生息密度は 5.30 個体/㎡であった。沖島東漁場は調査時には水草が繁茂していたため、採捕できなかった。

これら主要漁場での生息密度の増加から、資源が回復傾向にあることが示唆されるが、1997 年から現在までに見られるような変動

表1 各漁場におけるセタシジミ資源概況調査結果

地点	個体数	曳網面積(㎡)	密度(個体/㎡)
菖蒲	50	122	0.41
牧	853	274	3.12
※沖島南西	576	328	1.75 (0.31)
※沖島西	368	304	1.21 (0.20)
※沖島東	0	85	0.00
新海	4	274	0.01
石寺	138	282	0.49
八坂	6	86	0.07
※松原	129	308	0.42 (0.18)
※磯	501	397	1.26 (0.29)
※長浜	370	216	1.71 (0.32)
※今西	1344	253	5.30 (1.34)
海津	41	173	0.24
針江	206	200	1.03
鴨川	145	135	1.07
高島	131	140	0.94
近江舞子	451	179	2.53

()内は殻長18mm以上の生息密度

※は主要漁場

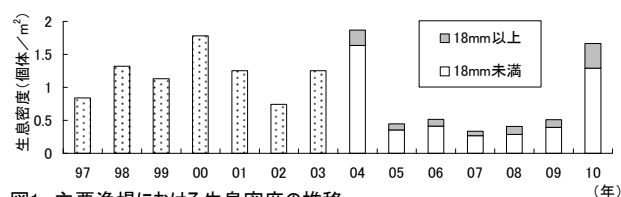


図1 主要漁場における生息密度の推移

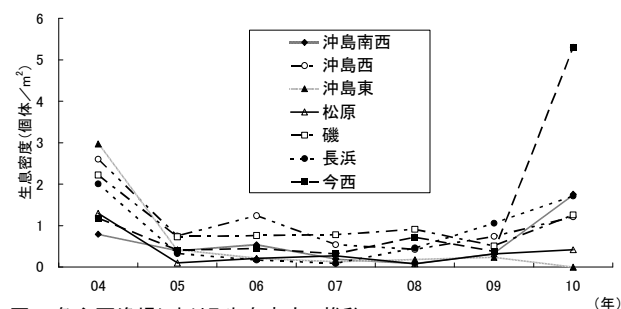


図2 各主要漁場における生息密度の推移

の一部である可能性もある。したがって、今後の資源動向には注意が必要であり、引き続き資源状況のモニタリングが必要である。

4. 研究成果

調査結果を過去の推移とともに資源回復計画推進のための漁業者検討会等で発表した。